



提供：株式会社アクセルスペース

#### 【表紙の説明】 Axelspace（アクセルスペース）の小型地球観測衛星 GRUS について

東京・日本橋で開発・製造される Axelspace の小型地球観測衛星 GRUS（グルース）は、現在 5 機体制（GRUS1-ABCDE）でコンステレーションを構成しています。高度 600km の軌道から撮影した地球上のデータは、2019 年 5 月末からサービスを開始した地球観測プラットフォーム AxelGlobe を通じ、ユーザーの手元に届けられています。また、Axelspace からの画像・画像提供とあわせ、リモートセンシングデータを活用する世界 30 カ国・80 社以上のパートナー企業を通じて、世界中のユーザーに画像データや分析データが提供されています。

GRUS は「つる座」という意味で、コンステレーションには星座という意味もあります。また GRUS の衛星は鶴の群れのように地球を周回することにちなんで名づけられました。サイズは一般家庭の洗濯機サイズ（600x600x800mm 以内/突起部含まず）質量は約 100kg です。GRUS1-A は 2018 年 12 月 27 日に、GRUS1-BCDE は日本初の量産小型衛星として、2021 年 3 月 22 日に打ち上げられ、現在も地球上の私たちにデータを届けています。

撮影画像は、地上解像度（隣り合う 2 つのピクセルの中心間の地表面上で測定された距離）2.5km、撮影幅 55km、最長撮影距離 1,000 km で、同一地点を 2～3 日に一度の間隔で撮影することが可能です。ユースケースとしては、スマート農業、インフラモニタリング、自然災害の早期発見、災害発生時の被害状況の把握、違法漁業モニタリングなど多岐に渡ります。今後、数年以内に GRUS の追加機を打ち上げ予定で、撮影頻度の向上の他、より利用しやすいリモートセンシングデータの提供に取り組んでまいります。